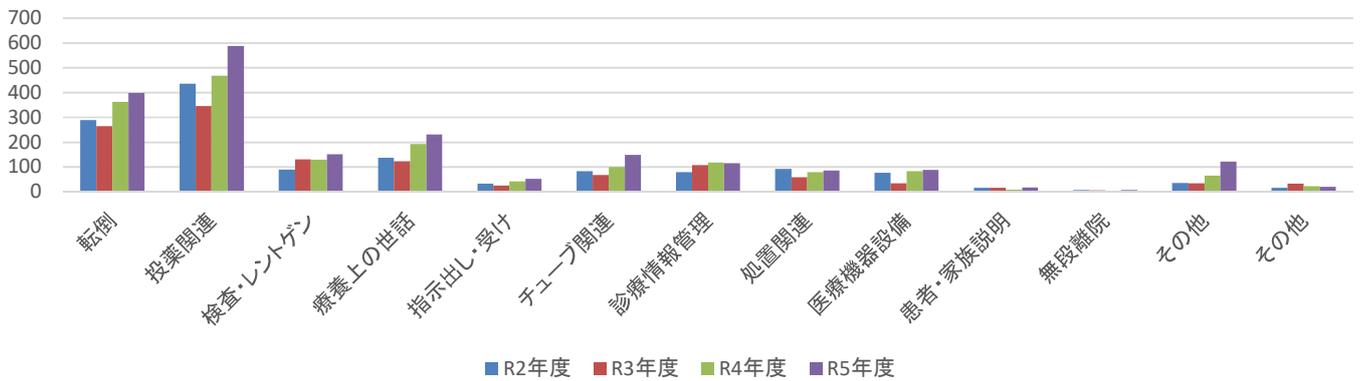


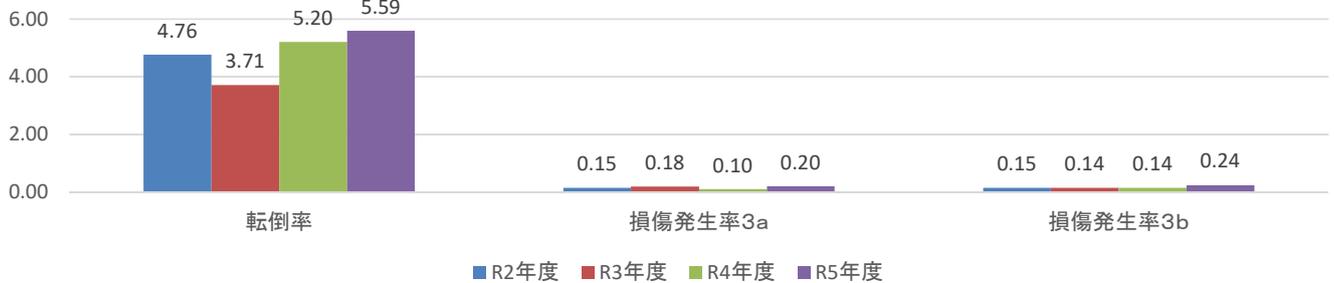
## 医療安全に関する報告

年度	転倒	投薬関連	検査・レントゲン	療養上の世話	指示出し・受け	チューブ関連	診療情報管理	処置関連	医療機器設備	患者・家族説明	無段離院	その他	その他	合計
R2年度	290	435	90	137	33	84	80	92	76	17	7	36	17	1394
R3年度	265	346	132	123	26	68	107	59	34	16	6	34	33	1249
R4年度	362	468	130	193	43	100	118	80	84	9	5	66	22	1680
R5年度	398	587	152	232	52	150	116	86	88	18	7	122	20	2028

### 表題別件数の年度比較



### 転倒発生率と損傷発生率の年度比較



医療安全に関する報告は令和5年度は2,028件と昨年度と比較し348件増加しています。そのうちゼロレベルの報告は889件でこれも前年度から増加となっていることから、医療安全の報告の習慣化が向上しているといえます。未然に防ぐことができた事例をもとに部署で予防策を導き出し習慣化することとしています。タイムリーな事例報告と事実確認、対策について現地で確認をしています。

転倒予防学会や認知症ケアの研修では、『転倒はゼロにすることはできない。行動を抑制せず、転んでも怪我しない対策が大切』といわれています。転倒に影響を及ぼすといわれる睡眠薬を病棟配置薬から外し、リハビリ依頼外でも必要であれば認知評価を行っています。ベッドサイドラウンドを継続して実施し補助具の使用の調整、院内デイケアを活用した高齢者援助を行っています。

転倒・転落に関する指標として当院の転倒率は5.59%と増加したが、令和4年(5.2%)と比較すると大きな変化はないと考えられます。損傷発生率は、3a(治療を要するが軽傷のもの)が0.2%、3b(骨折等の手術などの治療を要するし入院期間が延長するもの)が0.24%昨年度と大きな変化はありませんでした。